

古事記を読む会

17号 (2015,12,6)

師走になりました。今年の纏めや新たな年への準備にと何かと気持ちが動くころです。元気に年越しが出来ることを喜び、ゆったりと古事記を読んでみましょう。前は久しぶりの「古事記」の音読が楽しかったのは、なぜでしょう。また、話題に上がったことを幾つか出して、不参加だった方々に雰囲気伝えたいと思います。

きょうも、大国主神 あたりから読みます。思った事を出してください。

前回の流れ

ヤマトタケルについて提案された近藤さんの思いから、まず話の切り出し。

- 1、勇敢な少年として描かれている、父景行天皇の真意はどこにあったか。
父景行が悪く描かれているように思う。子に対する愛情がないのか。
- 2、女性に助けられる場面が多いのはなぜか。
- 3、タケルが死んで白鳥になって、帰るのが大和路を過ぎて、なぜ河内なのか。

そして、音読。近藤さんの系図や資料を出して見ながら・・・。

有名な場面について、立ち止まる。前に音読した時よりよく分かる所がある。

ねぎし教えさせ。 → 既にねぎしつ。 手足をもぎ取るという残忍方法。

熊襲征伐も → 女装・童女の姿で、劔を出し尻から刺し通す。

出雲タケルも偽りの大刀を交換して討ち果たす。更に東に向かって荒ぶる神を制すようにとの命に、叔母の倭比売にこぼす。比売から草薙の劔と袋をいただく。東征では、倭比売から授かった劔と袋で焼津の難を逃れた。紀の弟橘日売の身投げで海神の怒りを納めたりして東国を平定する。女性の助けで難から逃れるのは大国主と共通する。

三度ため息をついて、「あつまはや」と言った。失った妻への哀惜の念がこもる。

そして、その国を阿豆麻と言った。今の東の国だ。

古代の船には、女性を乗せたという。遣唐使などで、守り神を乗せる。(持斎と言って戒律を守って心身を清浄に保ち、航海の安全を期す。難破の時に身を献げる)

言挙げとは、大声で言い立てること。言葉の呪力を働かせるために行う。言挙げの内容に誤りがあると、言葉の力が逆に働く。倭建命の力が働かない。

柿本人麻呂の詩に巻向が出てくるのは、奈良(巻向)に奥様がいたからという。(服部先生) 以上のように前回の提案についても意見が出て、大変勉強になった。

ご案内 忘年会を設定しました。

12月13日(日) 6時～ 参加費 3000円

富山市内幸町 ヤナギヤ 0764-431-1131 富山駅から市電沿い徒歩5分